

HANAZONO 花園地区活性化プロジェクト

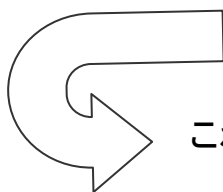
1. 花園地区の現状

協働のまちづくりで花園地区アンケート結果

現在の 65 歳以上の割合

上花園 53.6%

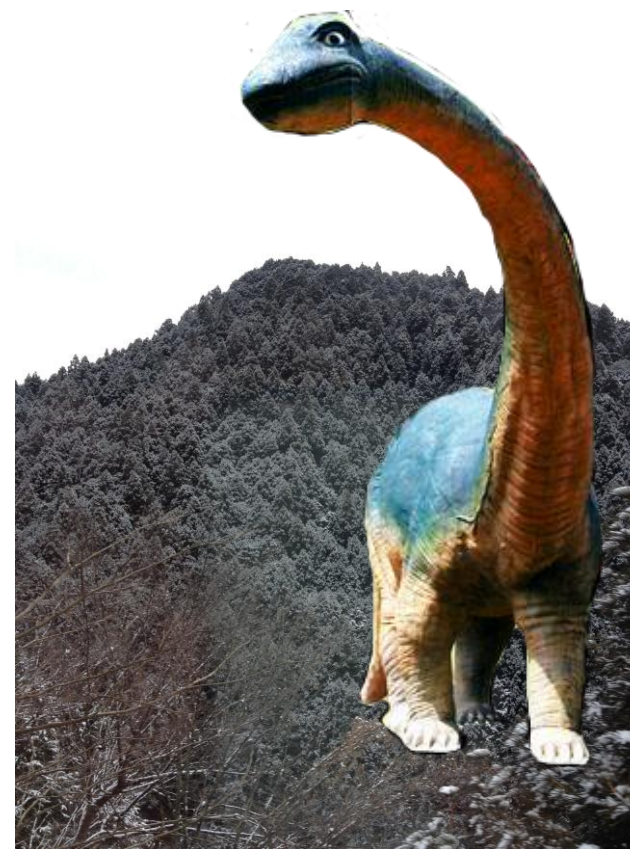
下花園 45.8%



これが 10 年後の予想では・・・

上花園 81.5%

下花園 65.3%



主要な産業がなく地理的にも不便な地域では、若年層が仕事や学校の都合で転出していくのは必然です。

今、手を打たなければ地区としての存続にも関わってきます。

2. 目的

ふるさとセンターを中心拠点とし、豊かな自然・元気なお年寄り、これらの潜在能力を生かし、活気のある地域作りを進め、観光客誘致に繋げる。

3. 内容

キーワード 『食』『健康』『美』



花園地区の活性化を考えるにあたり、今年度のまちプロ勉強会やその他の機会に耳にした外部の意見を参考にしました。

ゆずの村として有名な高知県馬路村農協理事長の東谷さんの話では、観光客を誘致し始めた当初、村の人たちは何もない村で都会から来た観光客に喜んでもらえるかどうか不安があったそうです。しかし、観光客の意見を聞くと、村人との交流や豊かな自然環境の中で日常を忘れてのんびりできる環境は逆に新鮮であると喜ばれたそうです。

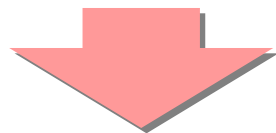
観光庁が認定する観光カリスマの刀根浩志さんは「ポジティブ変換」という言葉を用い、田舎の潜在能力を引き出すことが重要であると力説されていました。ポジティブ変換とは、田舎には何も無いと悲観するのではなく、山や川などの自然があり、大地の恵みである農産物があり、生活の知恵を持ったお年寄りがたくさんいる宝の山であるという意味です。

また、旅行業界最大手の JTB 団体旅行課長の納代信也さんの話によると、企業の社員旅行は定番の観光地をまわり、定番の食事を食べるといった一昔前の万人向けプログラムは受け入れられなくなっているとのこと。今後は顧客の抱える悩みをどのように解決できるか、そういった旅行が求められているとのこと。そして、現代人の旅行のニーズを考えるにあたり、外せないキーワードは『食』『健康』『美』の3つとのこと。



最近注目を浴びているのが、体脂肪計メーカー・タニタの社員食堂や女子栄養大学の学生食堂のレシピになります。

両者に共通するのが、調理方法を工夫し塩分や油分の使用を抑えながら、肉・魚・野菜をバランスよく摂ることのできる料理ということ。



新しいふるさとセンターでは、これらを参考に、地元の野菜やフルーツをふんだんに使用したボリュームがありながら太らない健康的な料理を提供します。

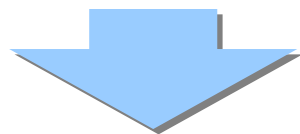
- ・ 食べても太らない健康料理教室

現在の
お昼の会席
¥2,980 円



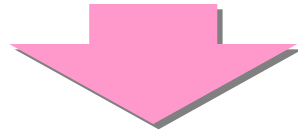


今、企業でよく問題とされていることが、精神疾患を抱える社員の増加だそうです。平成 20 年度の厚生労働省の調査によると、うつ病の総患者数が 100 万人を超えました。潜在的な数を加えるとその数十倍になると言われています。毎年の自殺者が三万人を超える国は日本以外にありません。特に、民間企業では景気の悪化に伴う人員削減により社員一人当たりの仕事量の増加や成果主義に伴う職場の人間関係の悪化が原因でうつ病になる社員が増えています。企業側としては、社員が病気になる前に心身の健康を取り戻す意味で、福利厚生に森林セラピーを取り入れた研修や旅行を取り入れている企業も多くなってきているとのことです。



これらのニーズに応え心身の健康を取り戻すために、花園地区の豊かな自然環境を生かして、森林浴(森林セラピー)を取り入れたり、初心者向けの登山コースを整備したり農作業を体験できる農園を整備してはどうでしょうか。また、長期的なスパンで心身の健康を取り戻すために、花園温泉での湯治治療を目的としたプランも検討できます。そのためには、新しいふるさとセンターにキッチン付の安価な湯治客用客室を設ける必要があります。

- ・ 森林セラピー(森林浴)
- ・ 湯治体験



溜まった宿便や老廃物を体外に排出し、きれいな肌を取り戻すことを目的に一泊二日のプチ断食(節食)コースを設けてはどうか。紀州名物の茶がゆを主食に野菜中心のメニューを提供し、体験メニューとしてハイキングや初心者向け登山、農作業などを設けることで、楽しく健康的に痩せることができ美容にも効果的です。

- ・ 一泊二日のプチ断食コース
- ・ 初心者向け登山
- ・ 初めての農作業

ふるさとセンター
宴会場から
見える雪景色

